

# 令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人有坂中央学園 中央動物看護専門学校

## 学校関係者評価委員会

中央動物看護専門学校 学校関係者評価委員会は「令和6年度自己点検・自己評価報告書」の結果に基づいて学校関係者評価を令和7年8月28日に実施したので、下記のとおり報告します。

### 1. 学校関係者評価委員

企業等委員：奥 野 征一	(ACORN 獣医神経病クリニック)
鈴木 正知	(NPO法人前橋環境保全基地 アリスの森)
卒業生：杉 浦 日南	(中央動物看護専門学校 卒業生)
天 沼 華菜	(中央動物看護専門学校 卒業生)
保護者会：三ツ木 一摩	(中央動物看護専門学校 保護者会)

### 2. 学校関係者評価委員会の流れ

学校関係者評価委員会では、自己点検について説明し、評価結果について検討いただきその評価を検証していただくとともにご意見ご助言等を頂いた。

### 3. 令和7年度自己点検・自己評価における学校関係者評価(中央動物看護専門学校)

評価項目	評価	評価に対する今後の学校の取組等
1. 教育理念・目標	●教育課程編成委員会等で、動物業界の現状と学校教育のすり合わせを行っているが、法改正等に伴い継続して研究を行うことが求められる。	○学生のみならず、職員も業界研究をする場を設け、内部共有の後、教育への反映を行う。
2. 学校運営	●各学科共に授業報告書の共有は行われているが、今後より工夫が求められる。	○外部講師との打ち合わせを設定し、情報交換の場を設ける。
3. 教育活動	●資格取得について、個々の教員が対策を実施しているが、体系的な整備が今後の課題となる。	○資格取得に向けた計画を作成し、検定終了後は作成した計画に対する振り返りと共有を行う。
4. 学修成果	●2・3年次の退学者が複数でた。	○退学の可能性のある学生に対して、早めのアプローチの実施と共に、保護

		者への情報共有の場を増やす。
5. 学生支援	<p>●社会人からの問い合わせに対してオンラインや対面に対応し、入学に繋がっている。今後更なる入学者数増に繋げる。</p> <p>●授業についてこられない学生への個別サポートは実施しているが、カリキュラム上、他学科への編入がそれぞれの専門性もあり難しい。</p>	<p>○社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているかについて、社会人入試制度があるが、利用者を増やす策としてホームページへの掲載やチャシの利用などわかりやすく表記し、外部へのさらなる周知をしていく。</p>
6. 教育環境	●講義室について、整備が不十分であったため、改善が必要と考える。	○5号館2階の倉庫増設により、講義室の整備を完成する。
7. 学生の受入れ募集	●入学者の増加に伴い、学力の不足や障がいを抱えた学生が見られるようになっており、各方面のサポートを早めに検討し、対応することが求められる。	○既に判明している学生については、サポート体制を確立させる。また、日々学生の様子を確認し、気になる言動や行動が見られた際には早めの対応を行う。
8. 教育の内部質保証システム	●教育の内部質保証システムについては、概ね達成しているが、各項目についてより徹底した管理が必要である。	○学校マネジメントと教育課程編成委員会・学校関係者評価委員会などを体系的・計画的に行うことで、PDCAが回るようにしてマネジメントの有効性を図っていく。問題点については判明次第、迅速に取り組み改善していくようにする。
9. 財務	中長期的に財政基盤を支えるため、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要となる。	<p>○本質的には「学生の夢（資格・検定と就職）を実現する」学校になることが募集力の決め手となると考え、教育と就職指導の質的向上を今後も目指していく。</p> <p>○外部機関による会計監査も定期的に適正に行われており、今後も継続して行う。</p>
10. 社会貢献・地域貢献	●地域に対する公開講座が少ない。	○本校の教育資源を十分に活用して、社会貢献・地域貢献に参加できるよう、呼びかけや運用整備を進めたい。

		○地域貢献のため、地域清掃やボランティア活動の参加など積極的に進めている。
1 1. 国際交流	●外国人留学生の受け入れはない。	○特になし

### 3. 総評

外部の学校関係者評価委員に対し、上記 11 項目について報告を行ったところ、委員からの評価は概ね良好であった。

一方で、中央動物看護専門学校の将来構想について、全体像をより明確に示すことで、よりの確かな助言が可能になるとの意見をいただいた。

現在、本校の将来構想として「動物と人との架け橋となる人材の育成」を掲げているが、この理念を誰もが理解しやすく、より具体的に示すことが求められている。

また、将来構想を具体化するにあたり、反映すべき重要な点として「動物業界における研究の在り方」が挙げられた。現在、本校における動物業界の情報収集は、動物関連企業が求める情報に偏りがちであるが、本来の研究・情報収集では、企業の顧客である“消費者の声”にも目を向ける必要があるとの指摘を受けた。

これらの意見を踏まえ、今後は動物業界人として、消費者のニーズを理解し、それに応えられる人材の育成を一層重視していくことが重要である。

以上